

『たすけ』の気まぐれコラム（第十五回） 【住宅設備機器リフォーム2】

こんにちは『たすけ』です。今回は住宅設備機器の続きのお話です。

システムバス(以前はユニットバスと呼ばれていました)は、浴槽・洗い場・シャワーがセットとなっていますが、それ以外に求めるものは出入り口面がフラットであるか否か、乾燥暖房機を設置するか程度ではないでしょうか。

ショールームで展示品を見ると、どうしても豪華なものに目が行きがちですが、機能に費用ほどの差はありません。**優先すべきは目に見えない断熱性能**です。**断熱性能が高ければ、暖房機の設置は必要ありません**し、乾燥機能は別途乾燥機を購入するか、コインランドリーを利用した方が有用です。**チェックポイントは、入口はドアより引戸、浴槽の跨ぎやすさ、手すりの形状・位置など**です。

浴槽は底面が滑りにくく、入浴時に足が伸びきらない程度の大きさが良いでしょう。

(高齢者の溺死・溺水を防ぐ為)

給湯はガス機器もありますが、エコキュートにすることをお勧めします。エアコンや冷蔵庫と同じヒートポンプ機器で、電力は冷媒ガスを圧縮するコンプレッサー稼働に使われ、**投入エネルギーの数倍の熱エネルギーを取り出せる優れたもの**です。ガス機器と違って、長持ちし燃焼効率が低下するということも少ないので、コストパフォーマンスが優れています。何よりIHクッキングヒーターと併用すればガス代(基本料を含む)を支払う必要もなく、室内空気汚染も0にすることができます。

照明はLEDライトを選択することが現在では最低条件です。

蝋燭を除けば、**電球・蛍光灯・LEDライトの3点からの選択なのですが、この順番で光効率が良くなります**。照明器具では、電気エネルギーが光エネルギーと熱エネルギーに変換されるのですが、LEDライトが最も効率良く光エネルギーに変換されます。(さわって最も熱いのが電球、熱くないのがLED)その為、**少ないW数でも同様の明るさが保持でき(電気料金が安くなる)、より長持ちします**。さらに、**熱放出が少ないため、夏の冷房負荷軽減ができる**というおまけ付です。

新築時も含め**誰も拘らないのがコンセントの高さ位置**です。冷蔵庫や洗濯機などの場合は高い位置に設置されますが、それ以外の場所では指定しない限り床から25cm(250mm)程度に設置されます。何故その位置にするのか何十人もの電気設備業者に問いましたが、明確な答えはありませんでした。ほとんどは「昔から」というものです。実は電気が普及した時代、日本の住宅は和室中心でしたので**座ったまま、コンセントの抜き差ししやすい位置**がここだったわけです。

現在の住宅には和室は1室あるかないかですから、この位置に何の意味もありません。

1室に2個以上を対角線上に設置することが一般的ですが、1室が狭い

日本の住宅では**1個がソファや机などの陰に隠れてしまいがち**です。

高さを床から1m(1,000mm)に設置すると影に隠れず、有効利用できますし、掃除機など頻繁に抜き差しする場合でも腰をかがめたり、しゃがんだりする必要もありません。さらに車椅子での使用にも問題ありません。

リフォームの際には是非考慮してみてください。

次回はヒートポンプ機器のお話です。お楽しみに。

